

石川県の海の幸を味わい、被災地支援

スカイトピア遊ランドで支援イベント



吉川区坪野の温浴宿泊施設、スカイトピア遊ランドで10日、特別企画、「石川県を応援しよう会」が開催され、参加してきました。

この会は、石川県から仕入れた「あんこう」「ブリ」「サザエ」「もずく」などを食べ、石川県へ義援金を送ろうという会です。

遊ランドの大広間には60人を超える人たちが集まり、「あんこう汁」や「ブリの造り」などを楽しみました。

「あんこう汁」は美味しく、私は2度もおかわりをしました。

このイベントには県外や長岡市からも参加がありました。私も久しぶりにお酒を飲み、参加者と交流しました。義援金は会場だけでも9万円以上集まったとのことでした。

この義援金は石川県の被災地におくられました。イラストは「あんこう汁」を配り始めたころの様子です。

食物アレルギー事故検証、これでいいのか

上越市教育委員会は、昨年9月5日に市内小学校で発生した食物アレルギー誤食事故の報告書をこのほどまとめ、14日の市議会文教経済常任委員会で説明しました。

報告書では、上越市の学校給食の現状、当該児童のアレルギー対応の状況、事故の経過、事故の経緯・検証・改善策をA4サイズで30ページにも及ぶ分量で書いています。また、保護者から寄せられたメッセージも掲載しました。

「献立作成から調理・配食まで」、「給食準備から救急車要請まで」の検証では、「配合成分表の確認」「腹痛の訴えへの対応」などで思い込み、必要な作業のあいまいさ、確認の不徹底、思い込みによる対応の遅れ、緊急性が高いアレルギー症状への対応の不徹底などがあったとし、「学校における食物アレルギー対応の手引き」の改定などを行うとしています。市教委では、「有識者の意見を踏まえ、検証と改善策の検討を進めた」としていますが、大事な主治医の協力は得られなかったとのことでした。

各委員からは、「主治医の意見が反映されなかったとすれば不完全な気がする」などの声が相次ぎました。

私は委員ではありませんが、委員長に発言を求め、「腹痛を訴えてからエピペンを打つまで18分というのは恐ろしい数字だ。その評価が書いてない」「食物アレルギー対応委員会が検証委員会の仕事をしたようだが、誰が委員長で、何回会議を行ったのか」「保護者からは文書の確認をいただいたというが、すべてに納得してもらえたのか」と質問しました。市教委側は、「評価は別の所に書いた(?)」「委員会是要綱で設置した。1月に1回会議を開いた」「保護者からは主治医の確認をとってと言われていたが、そうっていない」と答えました。



【ブルーディジー】南アフリカ原産のキク科の一年草。この時期の花ですから、耐寒性があります。葉は肉厚で、細い花茎の先端に青い花を1個ずつ咲かせます。花期は3月から5月です。花言葉は「恵まれている」「幸福」「協力」など。写真の花は12日、燕市にて撮りました。



干したネギを取り入れる人。牧区高尾にて。

はしづめ法一の活動レポート

No.2146 2024.2.18

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七九三回 クローラー運搬車

まさか板倉区で遠い昔の源地区のことを聞くとは思いませんでした。それも十五年前に他界した父の良き思い出につながる話でした。

先日、板倉区の北陸新幹線に近いところでNさんと共にSさん宅を訪ねたときのことで。私の名を告げたら、Sさんは親しい友人を迎えるような雰囲気です。「どうぞお入りください」と勧められました。

Sさんという名前ですぐに思い出したのは、元牛飼いの仲間だったSさんです。この人は旧妙高村の大洞原で搾乳をしていました。

Sさんに、「お宅は大洞原のSさんと関係がありますか。乳牛を飼っておられた……」と尋ねたところ、「いいえ、関係のある方ではありません」と答えられ、続けて、「こう言われたのです。」「私は有線放送の電話線張り替え工事でおたくに住んでおられた地域に行き、仕事をしていたことがあるんです」と。

びっくりましたね。新井の岡田土工業(株)に勤めていた板倉の寺野地区の人たちが砂防工事でわが家の近くにきておられたことや新井の長沢の人たちが旧吉川町のエリアで電話工事をされていたことは知っていました。でも、それ以外にも遠い吉川の山間部まで来た人がいたとは……。

有線放送の電話線張り替え工事が行われたのは私が住んでいた源地区です。当時、わが家は尾神の蛭場(小字名)にありましたが、いまから半世紀ほど前のことになりました。たぶん、私が高校か大学へ行っていた期間のどこかだと思っています。

Sさんの「電話工事をしていた」という言葉を聞いて、「そうなんですか。私も電話工事に出て電柱の穴掘りをさせてもらいました。長沢(妙高市)の大野さんなどと一緒にでした」と私が言うと、Sさんは一段と親近感を持たれた感じでした。ただ、大

野さんのことは「存じでなかつた」です。

Sさんによると、村屋の村松さん宅を宿にして、水源地区など旧源農協管内で電話線を張る仕事を約二か月間されたとのことでした。工事の時期は雪が残っている春先だったようです。一緒に仕事をしていた地元の人の中には川袋の小池電器屋さんもおられたとか。

うれしかったのは、その工事の話の中にクローラー運搬車のことが出てきたことです。電話線張替工事に使う電話線は大きなドラムに巻かれています。そのドラムを雪道で運ぶとき、ディーゼルエンジンを搭載し、キャタピラをはかせた運搬車で運んでもらったというのです。

この話を聞いたとき、「これは父が使っていたクローラー運搬車に違いない」と思いました。わが家では、冬場に牛乳を運ぶときにこの運搬車を使っていたからです。私も運転したことがあります。便利な機械ではあったものの、雪面が斜めになっているところは苦手で、すぐにキャタピラが外れてしまいます。カーブも上手にやらないとうまく曲がりません。だから、使い慣れた人が操作しないと仕事にならないのです。父が運搬車を運転し、電話張替えでも協力していたかもしれないと思ったら、懐かしさでいっぱいになりました。

旧源農協職員だった人に後で訊いたら、源地区には、わが家以外でもこの運搬車が一、二台導入されたようです。そのうちの一台は農協が牛乳運搬などで使っていたとのことでした。これは初めて聴きました。

板倉区のSさんは現在八六歳。初対面の人でしたが、おしゃべりが楽しい人でした。いまは切り絵が趣味で、牛乳パックを再利用した飾り物作りなどもやっておられます。今回は懐かしい昔話を聞かせてもらいましたので、次回は、作品作りのことをたっぷり聞いてみようと思います。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	2月7日(水)	2月14日(水)
上越南消防署	0.053	0.053
上越北消防署	0.053	災害対応中
新井消防署	0.047	0.057
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.067	0.063
東頸消防署	0.047	0.043
名立分遣所	0.060	0.063
高士分遣所	0.050	0.050

初めて寺野遊雪まつりへ

11日の午後、板倉区猿供養寺の「パークみよし野」で開催されていた寺野遊雪まつりを見てきました。同祭りへの参加は初めてでした。

私が会場に着いた時は、早飲み、早食い競争の最中、とても楽しそうでした。

興味深く見たのは「大相撲寺野遊雪場所」です。肥料袋をはき、滑りやすくしておいて、相撲をとる。雪の土俵に立っているだけでも大変そうでした。行司をされた方は大相撲の本場からやってきたのかと思うほどはまり役でした。

右のイラストはその時のものです。

